

EdgeGateway ModBus to MQTT マニュアル(拡張機能)



はじめに

本機器は、汎用ルータに弊社の拡張機能(modbus to MQTT)を追加したものです。

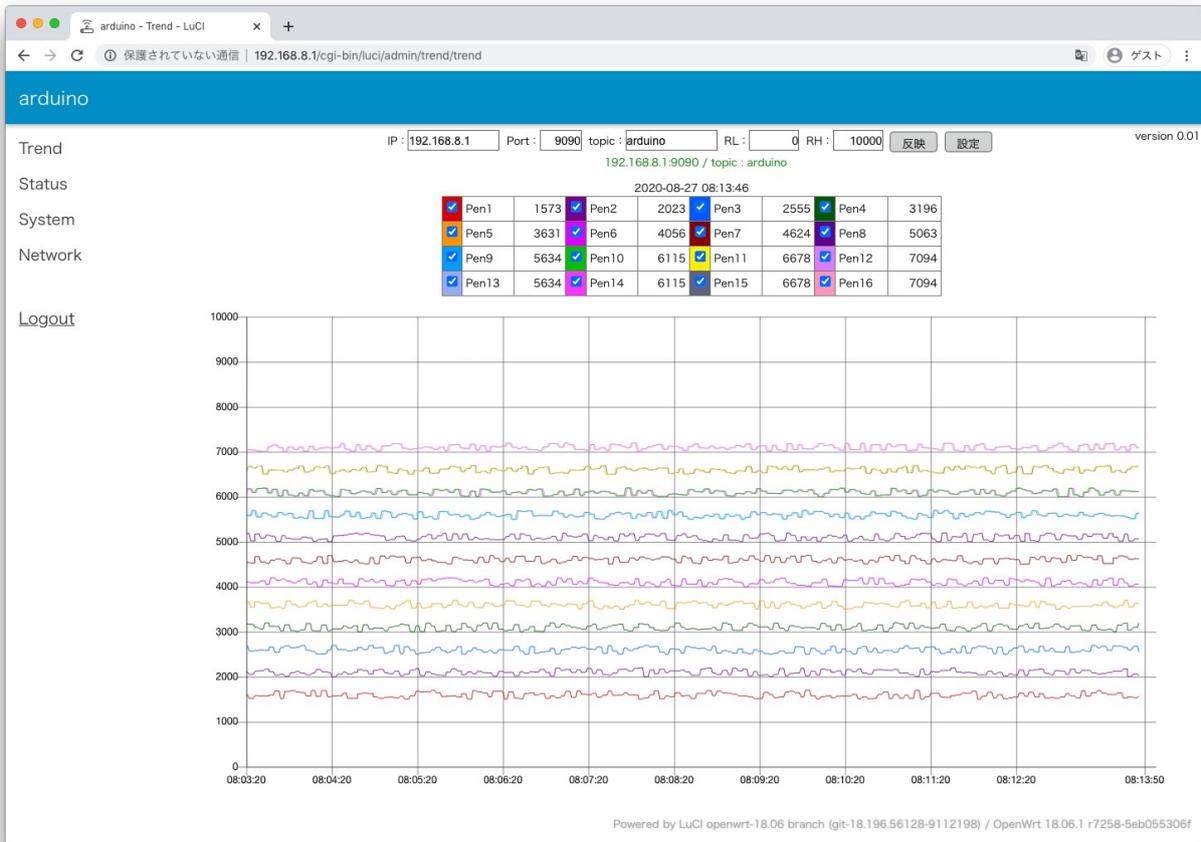
Chrome 等のブラウザのみで、リアルタイムなグラフ表示や通信設定が行えます。

※重要: 側面の Reset ボタンを 5 秒以上押さないで下さい。拡張機能が失われ、お客様では復元出来なくなります。

仕様

- ・MODBUS-RTU
RS485、バイナリ通信。
(USB-485 対応チップ:FTDI/PL2303/CP210x/CH341)
- ・MQTT 機能
MQTT/MQTTs プロコル対応。
ブローカ機能実装。

メイン画面



- ・IP: 接続先 MQTT ブローカーの IP アドレス
- ・Port: 接続先 MQTT ブローカーのポート番号
- ・topic: 接続先 MQTT ブローカーのトピック名
- ・RL: グラフ下限レンジ
- ・RH: グラフ上限レンジ
- ・「反映」ボタン: IP:~RH:の反映

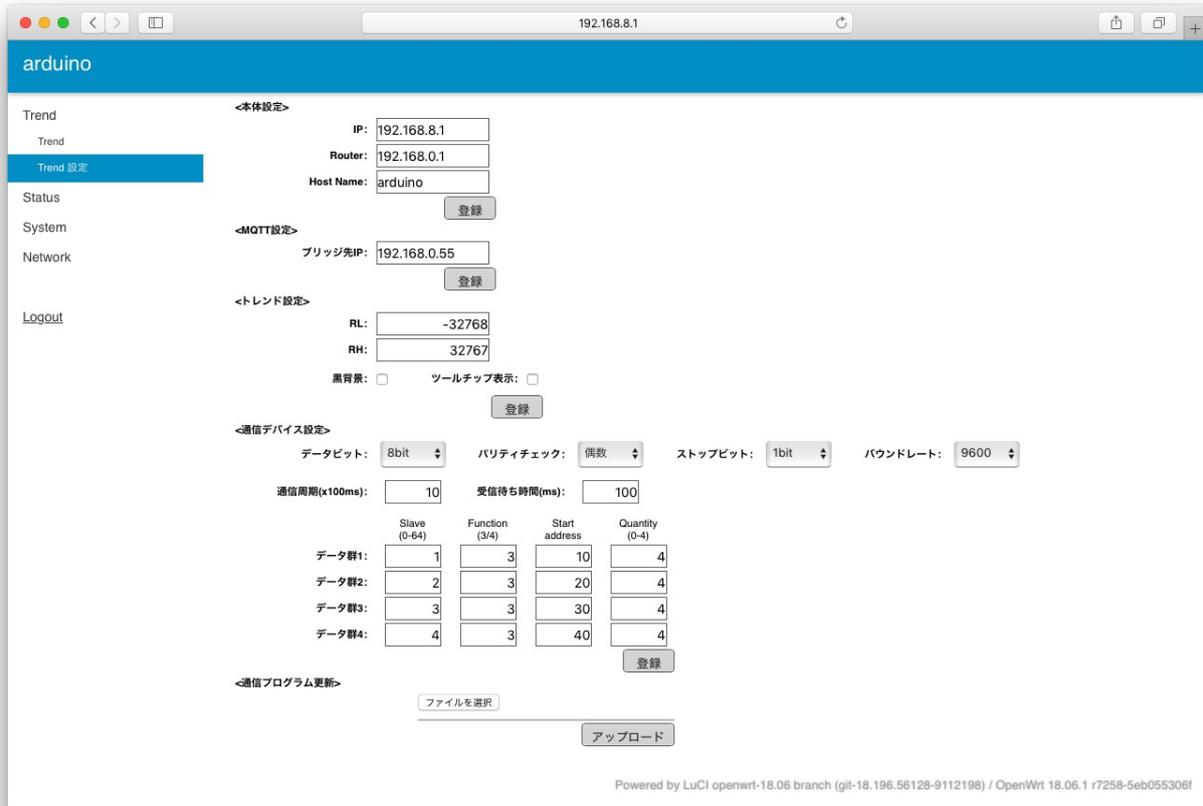
「メイン画面」の上部の各種設定欄は一時的なものです。(画面更新等でデフォルト値に戻ります。)

恒久的なデフォルト値の設定には、「設定」ボタンより展開される「設定画面」で行います。

リアルタイムなトレンドグラフの為、履歴データによるグラフ表示は出来ません。

履歴データのグラフ表示には、弊社ペーパーレスレコードシステムを御用命下さい。

設定画面



<ゲートウェイ設定>

- ・IP: 本機器の IP アドレス
- ・Port: 本機器のポート番号
- ・Host Name: 本機器の名前(MQTT のトピック名となる為、必ずユニークな名前を指定して下さい。)

<ブローカー設定>

- ・ブリッジ先 IP: 本機器と接続する相手先の MQTT ブローカー IP

<トレンド設定>

- ・RL: グラフ下限レンジ
- ・RH: グラフ上限レンジ
- ・黒背景: 背景色。
- ・ツールチップ表示: マウスオーバーした位置の各ベンダーデータをポップ表示

<通信デバイス設定>

- ・データビット: 8 bit/7bit
- ・パリティチェック: 偶数/奇数/無し
- ・ストップビット: 1bit/2bit
- ・バウンドレート: 9600/11400/19200/38400/57600/115200
- ・通信周期: 読み出し要求の周期(グラフ表示周期)
- ・受信待ち時間: 読み出し要求から返答までの待ち時間(接続デバイスの一番長い待ち時間を採用して下さい。)
- ・データ 1 群: Pen1~Pen4, データ 2 群: Pen5~Pen8, データ 1 群: Pen9~Pen12, データ 1 群: Pen13~Pen16
- ・Slave(0-64) スレーブ局番(0は無効となります。)
- ・Function(3/4) レジスタの読み出しモード番号
- ・Start address 読み出しレジスタの先頭アドレス
- ・Quantity(0-4) レジスタの読み出し個数

<ファイル選択>

- ・弊社拡張機能プログラムを更新します。

※ ハードの仕様については、<https://docs.gl-inet.com/jp/3/hardware/mt300n-v2/>のサイトを参照下さい。

※ Status/System/Network についての説明は、<https://openwrt.org/ja/start> のサイトより入手下さい。